

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展								
【年度計画】	① 平常展 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (東京国立博物館) 1) 「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画等、各種展示の更なる充実を図る。 2) 特集 テーマ性をもった展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。 ・「日本の仮面 舞楽面 行道面」(6月19日～7月12日) なお、臨時休館のため会期を変更して実施した。 ・「日本美術の記録と評価―調査ノートに見る美術史研究のあゆみ―」(7月14日～8月23日) ・「大野出目家と越前出目家の能面」(8月25日～10月4日) ・「令和元年度新収品展」(10月6日～11月15日) ・「書と紙―平安時代の美しい紙―」(9月24日～11月23日) ・「中国書画精華―古典の魅力―」(9月24日～11月15日) ・「破格から調和へ―17世紀の茶陶」(10月6日～11月29日) ・「中国近代の上海―海上派の書・画・印」(11月17日～12月23日) ・「世界と出会った江戸美術」(11月25日～3年1月11日) ・「珠玉の中国彫刻」(12月1日～3年2月21日) ・「表慶館の建築図面」(12月8日～3年2月14日) ・「博物館に初もうで ウシにひかれてトーハクまいり」(3年1月2日～1月31日) ・「清朝書画コレクションの諸相―高島槐安収集品を中心に―」(3年1月2日～2月28日) ・「木挽町狩野家の記録と学習」(3年2月9日～3月21日) ・「おひなさまと日本の人形」(3年2月23日～3月21日) ・「鳥獣戯画展スピンオフ」(3年3月23日～6月6日) ・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(3年3月24日～4月18日) 緊急事態宣言発出による臨時休館のために中止になった特集展示等は次のとおり。 ・「法隆寺と聖徳太子」(3月24日～5月10日) ・上野動物園、国立博物館との連携企画 親子のギャラリー「動物の動き」(5月12日～6月14日) 3) 文化庁関係企画 4月21日～5月10日の会期で予定されていた「令和2年 新指定 国宝・重要文化財」は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出による臨時休館のため中止された。 4) トーハク新時代プランに基づき、展示室の入り口に日本美術の流れを紹介するようなコンテンツを設置し、日本美術への親しみやすい導入を図った。								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 丸山士郎				
【実績・成果】	平常展来館者数は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出による臨時休館等のため、166,639人と目標値を大幅に下回り、展示替件数は5,041件と目標値に達しなかった。 (東京国立博物館) 1) 定期的な展示替えを実施し、392回の展示替えを行った。展示総件数は9,048件である。 2) 17件の特集を実施した。 4) 日本文化や歴史に親しみの薄い来館者も作品鑑賞を楽しめるよう、6月の開館再開とともに、本館1室はプロジェクターで日本美術の流れを紹介する導入映像を投影し展示の概要を総覧するとともに、4室「茶の美術」、9室「能と歌舞伎」ではデジタルサイネージで展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を上映した。								
【補足事項】	本館に設置しているグループ解説を見直し、デザインを新しくした。								
【定量的評価】	項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
	平常展の来館者数	166,639人	512,186人※	-	年	761,709	1,030,180	989,508	1,030,652
	平常展の展示替件数	5,041件	6,009件	-	変	8,538	6,616	5,981	5,813
	平常展の展示総件数	9,048件	-	-	化	10,918	10,223	9,253	9,267
【年度計画に対する総合評価】	評価：B 【判定根拠、課題と対応】 2年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため緊急事態宣言発出による臨時休館のため、展示替えを中止したことにより大幅に展示件数が減った。しかし、当館所蔵品とその研究成果を公開する意欲的な特集を、計画通り17回実施したことは評価できる。また、トーハク新時代プランに基づくコンテンツの導入を着実に進行しており、B評価とした。								
【中期計画記載事項】	平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図った。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指した。								
【中期計画に対する評価】	評価：A 【判定根拠、課題と対応】 特別展や季節に連動した特集展示、特別企画を積極的に実施したことで、総合文化展の展示内容の質の高さについては、大幅に認知度が上がってきている。 また解説の内容を刷新・多言語化することによって、新型コロナウイルスの影響の大きい2年度を除き、来館者数は大幅に増加し、前中期目標実績以上の入館者数を得ることができた。 次期中期計画以降においても、さらに平常展を充実させ、来館者の満足度の向上に結び付けていくかについて、具体策を提言していく必要があると思われる。								

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展								
<p>【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (京都国立博物館) 1) 明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展も開催するための平常展展示計画を策定し、平常展を行う。 2) 平成知新館において、趣向をこらした特別企画、特集展示を行う。 特別企画 ・文化財保存修理所開所40周年記念特別企画「文化財修理の最先端」(6月23日～7月19日) ・特別企画「オリンピュア×ニッポン・ビジュツ」(7月21日～8月23日) ・仏教美術研究上野記念財団設立50周年記念特別企画「新聞人のまなざしー上野有竹と日中書画の名品ー」(8月26日～9月22日) 特集展示 ・「丑づくしー干支を愛でるー」(12月19日～3年1月31日) ・日本書紀成立1300年記念「国宝『日本書紀』と東アジアの古典籍」(12月19日～3年1月31日) ・「新収品展」(3年2月3日～2月28日) ・「雛まつりと人形」(3年2月9日～3月7日)</p>									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	山川 暁					
<p>【実績・成果】 (4館共通) 1) 平常展来館者数は、18,941人であった。また、展示替件数は458件であった。 (京都国立博物館) 1) 特別展前後の準備・撤収及び「働き方改革」に則った業務内容の整理にともない、名品ギャラリー一閉室期間を設けた展示計画を策定した。 2) 年度計画に基づき、2件の特別企画、3件の特集展示を実施した。 特別企画「オリンピュア×ニッポン・ビジュツ」は新型コロナウイルスの影響により3年度に延期した。</p>									
<p>特別企画「文化財修理の最先端」 展示風景</p> 									
<p>【補足事項】 ・特別企画「文化財修理の最先端」は、当館敷地内に併設されている文化財保存修理所開所40周年を記念し、開催した展覧会である。近年修理された文化財のなかでも、特に注目される作品を展示した。展示件数52件のうち、国宝7件、重要文化財28件と厳選した展示内容とした。平常展ではあるが京都新聞が共催に入ることによって、広く周知を図った。関連イベントとして、シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」を開催し、広く文化財修理の重要性を訴える活動も行った。 ・特別企画「新聞人のまなざしー上野有竹と日中書画の名品ー」は仏教美術研究上野記念財団設立50周年を記念して、当館が受贈した中国の書画を中心に上野氏がかつて収集した名品を展示した。 ・特集展示「丑づくしー干支を愛でるー」は、新春の干支にちなんだ展示を行った。人類の生活と古くからかわりをもつ「牛」を表現した細やかな小作品から野性味溢れる作品までを紹介した。 ・特集展示「国宝『日本書紀』と東アジアの古典籍」は日本書紀成立1300周年を記念して開催した展覧会である。当館の所蔵する「岩崎本」「吉田本」という国宝に指定されている2つの「日本書紀」を中心に日本・中国・朝鮮半島の優れた古典籍を展示した。 ・特集展示「雛まつりと人形」は華やかな御殿雛飾りを中心に各種の雛人形とさまざまな京人形を展示した。</p>									
【定量的評価】	項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
平常展の来館者数		18,941人	136,308人※	—	年	186,162	136,862	146,314	158,664
平常展の展示替件数		458件	919件	—	変	943	973	1,021	1,140
平常展の展示総件数		467件	—	—	化	1,068	978	1,038	1,147
【年度計画に対する総合評価】	評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により会期調整等を行った結果、開催できない展示もあり、来館者数の目標値を下回った。しかし、特別企画「文化財修理の最先端」では京都新聞社と共催し、広報やシンポジウムを行い、これまで以上に来館者数を増やす取り組みを行うことができた。また、例年よりも限られた展示期間において複数の特別企画と特集展示を行うことにより展示替件数を増加させることができた。</p>							
【中期計画記載事項】	<p>平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。</p>								
【中期計画に対する評価】	評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 2年度の定量的評価については新型コロナウイルスの影響により達成できなかったが、より多くの来館者を獲得するために新聞社等のマスメディアと積極的に協力し集客力を高める取り組みを行うことができた。明治古都館が改修工事に伴い閉館している状況において、平成知新館の展示室を上手く活用することにより限られた会期のなかで多くの平常展を実施することができた。 充実した展示内容を実施できたこと、計画期間中は概ね目標値を達成していることから考えて、中期計画を達成したと言える。</p>							

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展								
【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (奈良国立博物館) 1) 下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展(平常展)を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。 ・西新館 絵画、書跡、工芸、考古 ・なら仏像館 彫刻 ・青銅器館 中国古代青銅器 2) 分野の枠を超えた特別陳列を実施する。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「お水取り」(3年2月6日～3月21日)等									
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤 栄						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 平常展来館者数は43,262人(仏像館入館者数+西新館 12/8～3/21)、展示替件数は261件(西新館名品206、修理11、なら仏像館44、青銅器館0)。 (奈良国立博物館) 1) 下記のとおり名品展を実施し、特集展示を1件開催した。 ・名品展「珠玉の仏教美術」 西新館 12月8日～3年3月21日 ・名品展「珠玉の仏たち」 なら仏像館 4月1日～12月20日、3年2月23日～3月31日 ・名品展「中国古代青銅器」 青銅器館 4月1日～12月20日、3年2月23日～3月31日 ・特集展示「新たに修理された文化財」 西新館 12月22日～3年1月17日 ※以上の会期のうち、2月27日～6月1日は新型コロナウイルス感染拡大防止のために休館とした。 2) 下記のとおり特別陳列を開催した。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集 神鹿の造形―」 東新館 12月8日～3年1月17日 ・特別陳列「お水取り」 東新館 3年2月6日～3月21日 ・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」 西新館 3年2月6日～3月21日									
【補足事項】 ・仏像館では、常時100件以上(うち重文38～40件、国宝1件を含む)の仏像を公開した。6月2日からは、特別公開として京都・大智寺の重文・文殊菩薩騎獅像を、胎内CT調査の成果とあわせて公開した。また、像高が5mを超える奈良・金峯山寺の重文・金剛力士立像2軀の修理が完了し、3年2月23日から特別公開を開始した。本像については金峯山寺の協力を得、3年3月20日から来館者の写真撮影を可能とした。 ・名品展「珠玉の仏教美術」では、絵画・書跡・工芸・考古の4部門にわたる名品を、会期中は常時100件前後(うち重文20～30件、国宝10～15件を含む)公開した。また、考古部門では文化庁の「考古資料相互活用促進事業」に基づき、青森県、和歌山県、下関市の三か所の博物館と作品の交換展示を行い、縄文土偶から貿易陶磁器まで幅広い展示を行った。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、祭礼を描いた絵巻に登場する衣装や物品の実物を展示するなど、奈良の祭礼を理解するための工夫を凝らした。また鹿の造形を集め、子供にも興味をもってもらえる構成とした。 ・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」では、普段公開することのない旧本館の設計図や建築家の努力の歴史について紹介した。									
【定量的評価】項目		2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
平常展の来館者数		43,262人	118,173人※	-	年 変 化	145,676	135,776	140,829	160,869
平常展の展示替件数		261件	314件	-		427	210	232	239
平常展の展示総件数		490件	-	-		664	548	462	461
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症により、奈良県への来訪者が大幅に減少したこと、特に春日若宮おん祭や東大寺二月堂お水取りなど、奈良の有名な伝統行事への一般参加・観覧が規制されたことなどから、当館周辺の観光事業は大打撃を受けてしまった。来館者数の激減はこうした2年度の特殊事情を反映したものと考えられる。 また、当館の新館は建物規模が小さく、特別展は全床面積を使うため、そのたびに名品展(常設展相当)を撤収している。名品展は特別展のない冬期に限り開催する状況で、この数年来は展示替件数は相対的に少なくなっている。そうした中、特別陳列「帝国奈良博物館の誕生」のような斬新な切り口の展示で、当館の隠れた魅力を発信することができたのは特筆に値する。さらに、なら仏像館では、開館以来、最大の仏像(奈良県金峯山寺金剛力士像/像高約5m、重要文化財)を展示するなど、施設を最大限に生かした果敢な活動ができたことも評価すべきと思量する。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 仏教美術の専門館として他所にみられない高い質と量を備えた展示が開催できた。2年度においても大智寺文殊菩薩像の胎内CT調査結果の公表など最新成果を展示に反映することができており、今期を通じて名品展、特集展示、特別陳列は、随所に最新の成果を盛り込んでおり、展示内容では前期に並ぶかそれ以上の質のものを開催できており、中期目標を達成したと捉えられる。 なお、新館の展示など構造的な問題について、できるかぎりの対策を、今後も継続的に検討・実施して行きたい。							

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																											
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展																																											
【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (九州国立博物館) 1) 特集展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。 ・九州国立博物館開館15周年記念特集展示「きゅーはく どうぶつえん」(6月2日～7月12日) ・九州国立博物館開館15周年記念特集展示 大宰府史跡指定100年記念「筑紫の神と仏」(6月2日～8月30日) ・九州国立博物館開館15周年記念特集展示 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展「しきしまの大和へー奈良大発掘」(7月28日～12月20日) ・九州国立博物館開館15周年記念特集展示「織物に魅せられてー加賀前田家伝来の名物裂」(12月1日～3年1月24日) ・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」(3年1月1日～1月24日) ・「天神縁起の世界」(3年2月2日～3月28日) 2) 新時代プラン「楽しかあ!! 九博プラン」に基づき、高精度のレプリカを活用した展示の充実を図る。 ・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」(9月8日～11月23日)																																												
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長	白井克也																																								
【実績・成果】 (4館共通) 1) 前中期目標の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを1,671件行い、来館者数は81,230人であった。 (九州国立博物館) 1) 新型コロナウイルスの影響を考慮した上で、計画を柔軟に見直して、特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、講演会の実施等により、成果の普及を図った。 2) 実物展示に加えてレプリカや再現文化財も有効に活用しながら、従来の展示とは違った切り口から文化財への関心を喚起し、鑑賞の幅を広げる取り組みを行った。																																												
【補足事項】 ・「きゅーはく どうぶつえん」は新型コロナウイルスの影響による臨時休館のため、会期を変更して実施した。平易な口語による解説文、動物の鳴き声の環境音響など、より親しみやすくするための工夫を施し、とくに親子連れの来場者に好評だった。会場は撮影可能とした。 ・「筑紫の神と仏」は新型コロナウイルスの影響により、会期を変更して実施した。本展は当館が開館以来実施してきた、大宰府学研事業の成果を広く発信するものであり、図録も発行した。観世音が所蔵する国宝の梵鐘の展示コーナーでは録音した鐘の音を定期的に流した。 ・「しきしまの大和へー奈良大発掘」は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の所蔵品を中心に、縄文時代から中世にかけての出土資料の優品を展示し、日本が外来文化を受け入れながら独自の文化を形成していく歴史を紹介した。 ・「織物に魅せられてー加賀前田家伝来の名物裂」は新型コロナウイルスの影響により、会期を変更して実施した。加賀・前田家第3代の前田利常が長崎県平戸などで収集させた舶来の名物裂を収めた裂帖を中心に、日本人が魅せられた織物の世界を紹介した。 ・「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3点(「貝桶」、「昆布箱」、「楊枝箱」)を展示した。あわせて、婚礼行列を描いた絵巻や大揃いの婚礼調度も紹介した。 ・「天神縁起の世界」は「天神さま」として親しまれる菅原道真の生涯や北野天満宮の始まりなどを描いた天神縁起が、時代の移り変わりとともに多様化し、地域ごとに特色をもつものが展開していく様相を紹介した。開館以来実施してきた太宰府天満宮との連携研究の成果を発信するとともに、近年発見された初公開の作品にも焦点を当てた。図録も刊行した。 ・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」は実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示することで、ガラスケース越しの観察やキャプション解説からだけでは分からない作品の魅力を発信した。会場は撮影可能とした。																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>2年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th>経年変化</th> <th>28</th> <th>29</th> <th>30</th> <th>元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常展の来館者数</td> <td>81,230人</td> <td>387,744人※</td> <td>-</td> <td></td> <td>393,590</td> <td>350,848</td> <td>349,114</td> <td>348,563</td> </tr> <tr> <td>平常展の展示替件数</td> <td>1,671件</td> <td>1,253件</td> <td>A</td> <td></td> <td>1,654</td> <td>1,594</td> <td>1,779</td> <td>1,641</td> </tr> <tr> <td>平常展の展示総件数</td> <td>1,964件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>2,208</td> <td>1,894</td> <td>1,995</td> <td>1,894</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元	平常展の来館者数	81,230人	387,744人※	-		393,590	350,848	349,114	348,563	平常展の展示替件数	1,671件	1,253件	A		1,654	1,594	1,779	1,641	平常展の展示総件数	1,964件	-	-		2,208	1,894	1,995	1,894
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元																																				
平常展の来館者数	81,230人	387,744人※	-		393,590	350,848	349,114	348,563																																				
平常展の展示替件数	1,671件	1,253件	A		1,654	1,594	1,779	1,641																																				
平常展の展示総件数	1,964件	-	-		2,208	1,894	1,995	1,894																																				
【年度計画に対する総合評価】 評価：B																																												
【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により臨時休館の措置をとったため、来館者数の増加にはつながらなかった。しかし、計画に沿って、多彩な特集展示を行ったほか、年齢層の違いや障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しめる展示の取り組みを行った。																																												
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。																																												
【中期計画に対する評価】 評価：B																																												
【判定根拠、課題と対応】 2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、会期変更などの柔軟な対応により中期計画に即した文化財の公開を実現することができた。また、中期計画期間を通し、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与する展示を行ったことから、中期計画を達成できたと考える。 次期中期にあたる3年度は日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に一層資するべく、沖縄の伝統的な手工芸やオリエント古美術を紹介する特集展示を計画している。2年度同様、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組んでいきたい。																																												



特集展示「きゅーはく どうぶつえん」の展示会場

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展								
【年度計画】	(4 館共通) 2) 満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。								
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長 丸山士郎 企画室長 山川曉 課長 大西真一 課長 白井克也						
【実績・成果】	<p>(東京国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合文化展のアンケート集計方法を、従前の会場内にアンケート用紙を設置する形から、毎月1回、来館者に記入を依頼する形に変更した。その結果、来館者数が新型コロナウイルス感染拡大の影響で大幅に減った状況の中でも一定数の回収数とすることができた。 <p>(京都国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平常展開催期間中にアンケートの記入場所を設置した。アンケートだけでなく、ウェブサイトや口頭により寄せられた意見は担当部署に共有し、積極的に回答や改善などの対応を行った。 <p>(奈良国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 館内の2か所にアンケート記入場所を設置し、記述式アンケートを通年で実施したほか、12月以降はアンケート記入場所を1か所増やし、より多くの回答を集められるよう工夫した。アンケート結果については、速やかに集計作業を行った後、関係部署で情報を共有し改善に努めた。また、ウェブサイトを通じて寄せられた当館への意見・要望についても、アンケートと同様に情報を共有し改善に向け努力した。 <p>(九州国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年度は、新型コロナウイルスの影響から平常展におけるアンケートを実施することができなかった。しかしながら、ウェブサイト・口頭などで来館者から寄せられた意見は館内で共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を行った。 								
【補足事項】	<p>(東京国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合文化展のアンケート集計方法を当館から来館者に依頼する形に変更したことにより、より幅広い意見を集めることができた。 <p>(京都国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルサイネージを情報発信のツールとして効果的に使用することにより、リアルタイムの館内情報を視認性高く提供することができた。 <p>(奈良国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 来館者の意見や要望を踏まえて館内の掲示物を修正するなど、観覧環境の改善に取り組んだ。 来館者からの要望に応え、3月20日(土)より、名品展のうち一部作品の写真撮影を可能とした。 <p>(九州国立博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特集展示ごとに、立て看板や特大バナーをエントランスに設置するなど、開催中の展示内容、開催場所などが一目でわかるように工夫したほか、新型コロナウイルスの流行によって特別展が行われなかった期間に、開館15周年記念看板を設置し、4階の平常展の企画を列挙するなどの方策を講じた。 								
【定量的評価】	項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
平常展の来館者アンケート満足度									
東京国立博物館		85.8%	74%	B		71.0	87.3	89.2	90.2
京都国立博物館		78.5%	79%	C		75.0	84.4	89.7	79.1
奈良国立博物館		94.2%	79%	B		88.9	90.1	92.5	93.2
九州国立博物館		-%	67%	-		73.8	77.8	73.6	77.1
【年度計画に対する総合評価】	評価: B	【判定根拠、課題と対応】 各館の平常展の満足度については、元年度に引き続き、全体的に高い水準を維持することができた。今後はQRコードを活用したアンケートなど、集計作業の簡易化、より幅広い来館者層からの意見集約ができるような方法も検討する。また引き続き、アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられる来館者の意見・要望を踏まえつつ、より一層の満足度の向上を目指していく。							
【中期計画記載事項】	<p>平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。</p> <p>なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。</p>								
【中期計画に対する評価】	評価: B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間全体を通して、来館者アンケートの満足度は前中期目標の期間の実績以上となり、中期計画を遂行できた。5年間を通して来館者の意見を分析・共有し、環境改善を続けたことにより、満足度が向上した。 次期中期以降も、来館者の満足度向上に向けて引き続き努力していく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展							
【年度計画】 (4館共通) ア 中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。								
担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長 田沢裕賀 企画室長 山川暁 部長 内藤栄 部長 小泉恵英					
【実績・成果】 (東京国立博物館) 特別展を4回開催した。 (京都国立博物館) 特別展を2回実施した。 (奈良国立博物館) 特別展を2回実施した。 (九州国立博物館) 特別展を1回開催した。								
【補足事項】 (東京国立博物館) 開催した特別展は以下の通り。 特別展「きもの KIMONO」、特別展「工藝2020—自然と美のかたち—」、特別展「桃山—天下人の100年—」、特別展「日本のたてももの—自然素材を活かす伝統の技と知恵」 (京都国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 西国三十三所草創1300年記念特別展「聖地をたずねて—西国三十三所の信仰と至宝—」、御即位記念特別展「皇室の名宝」 (奈良国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」、「第72回正倉院展」 (九州国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展「奈良・中宮寺の国宝」								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	28	29	30	元
特別展の開催回数 (海外展含む)								
東京国立博物館	4回	年3~4回	B		13	7	9	8
京都国立博物館	2回	年1~2回	B		2	2	2	2
奈良国立博物館	2回	年2~3回	B		4	3	3	3
九州国立博物館	1回	年2~3回	-	4	5	4	4	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度は新型コロナウイルスの影響による臨時休館等のため、4館全てで目標値を上回る特別展を実施することはできなかった。 しかし、時機に合った企画や地域文化に深く関わる展示内容を展開する等、質的に我が国の中核拠点にふさわしい事業を展開し、臨時休館を経て特別展を再開した際には、感染予防対策をふまえた観覧方式を工夫することができた。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に合った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (東京国立博物館) 年3~4回程度 (京都国立博物館) 年1~2回程度 (奈良国立博物館) 年2~3回程度 (九州国立博物館) 年2~3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期最終年度となった2年度は、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、今中期計画期間全体を通して質の高い特別展を開催し、中期計画を遂行することができた。特に東京国立博物館では中期計画期間中、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信するため、多岐に渡る調査研究の成果を踏まえた多様なテーマの特別展等 (海外展含む) を実施し、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信した。 また、4館において展示の理解促進に寄与するものとなるように、展示と解説に工夫をし、多言語 (日英中韓) 解説や撮影スポットの設営なども実施した。一方、多数の来館者が訪れる展覧会には混雑が伴うので、その緩和・解消が課題となった。混雑対策は、新型コロナウイルスの流行下の中で工夫された観覧方式を参考に、観覧環境が少しでも快適になるように工夫していく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展								
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 浅見龍介						
【実績・成果】 (東京国立博物館) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、入場者数を制限する必要があると判断し、オンラインによる日時指定を導入した。それにより、会場内は来館者にとって快適かつ安全な観覧環境とすることができた。									
【補足事項】 (東京国立博物館) アンケートは、従前の会場内に期間中設置する形から、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取ったうえで、来館者に記入を依頼する形に変更した。その結果、一定の回収数も確保できた上で、より幅広い層から意見を聴取することができた。また集約したアンケート結果は、館内で共有し、今後のより質の高い展覧会実施のための参考とした。									
【定量的評価】 項目	2年度実績	目標値	評価		28	29	30	元	
特別展の来館者アンケート満足度	85.5%	71%	A	経年変化	87.9	86.4	84.2	86.6	
体感！日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—	-%	-	-		-	-	-	-	-
法隆寺金堂壁画と百済観音	-%	-	-		-	-	-	-	-
きもの KIMONO	93.1%	-	-		-	-	-	-	-
聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ	-%	-	-		-	-	-	-	-
スポーツNippon	-%	-	-		-	-	-	-	-
日本・中国・韓国の漆工	-%	-	-		-	-	-	-	-
国宝 鳥獣戯画のすべて	-%	-	-		-	-	-	-	-
桃山—天下人の100年	91.2%	-	-		-	-	-	-	-
工芸2020—日本の工芸と自然	78.4%	-	-		-	-	-	-	-
日本のたても—自然素材を伝統技術に活かす知恵	79.3%	-	-		-	-	-	-	-
ジパング 世界と出会った日本の美	-%	-	-		-	-	-	-	-
修復された海外の日本美術	-%	-	-		-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 各展覧会とも、非常に高い満足度を達成することができた。日時指定制導入に伴い、来館への手続きが増えるデメリットはあったが、アンケート結果からは、質の高い展覧会を快適な観覧環境の中で楽しめた、など好意的な意見が数多く寄せられた。								
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して来館者の満足度は8割を超えており、2年度も特異な環境下で開催した展覧会であったが、高い満足度を得ることができた。次期中期においても安心安全かつ快適な観覧環境を維持しつつ、来館者がより気軽に来館できる方策を検討していく。								

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】	(4館共通) イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。							
担当部課	総務課	学芸部	事業責任者	課長	西尾佐枝子	企画室長	山川暁	
【実績・成果】	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各特別展開催前に監視要員向けに留意事項、期間中のイベント、販売券種及び割引対象等について説明会を行った。 来館者の新型コロナウイルス感染を未然に防ぐため、入館前の検温を実施や多言語（日・英・中・韓）やピクトグラムを活用した案内看板の設置を行い、安心して観覧できる環境を整備した。 <p>○特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」での対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 展覧会開催中、新型コロナウイルス対策への協力依頼を館内アナウンスすることにより、来館者が安全に観覧できる環境づくりができた。 展示室内に西国三十三所の巡礼地である寺院を紹介する展示パネルを設置した。来館者が作品鑑賞だけでなく関連寺院の詳細も知ることができる工夫を施した。 <p>○特別展「皇室の名宝」での対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス対策として事前予約優先制を導入した。展示室内の人数を制限することで感染予防対策を実施することができた。また、従来は待ち列ができることが多かったが、事前予約優先制を導入したことにより待ち列を回避することができた。 特別展開催中にはツイッターで混雑状況の配信を行い、来館者が安心して展示を楽しめるように情報提供を行った。 展示内容の理解を深めるため、展示リストだけでなく教育普及目的のリーフレットも展示室内にて配布、ウェブサイトでの公開を行った。日・英・中・韓の4言語に対応した多言語鑑賞ガイドとすることで、より幅広い来館者が楽しめるものとした。 							
【補足事項】	   <p>「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」の紹介パネル</p> <p>「皇室の名宝」の多言語鑑賞ガイド</p> <p>新型コロナウイルス対応案内のピクトグラムと多言語での案内看板</p>							
【定量的評価】 項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
特別展の来館者アンケート満足度	73.9%	89%	C		78.1	81.9	94.6	80.6
聖地をたずねて	74.4%	-	-		-	91.3	90.2	70.2
皇室の名宝	73.5%	-	-		-	78.3	97.7	72.9
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>2年度は新型コロナウイルスの影響を受けたが、来館者の安全確保を最優先とし、混雑が予想される特別展では事前予約優先制を導入する等の対策を行った。また、人数制限を実施したことにより普段の展覧会よりも混雑状況を緩和することができ、安心して観覧できるゆとりある空間を提供した。また、新型コロナウイルス対策を講じながら、通常ワークショップで解説する内容をパネルで設置したことや、鑑賞ガイドの配布等により、展覧会への理解を深められるようにした点は評価できるため、定量的評価の目標値には届かなかったが、年度計画を達成したと判断した。</p>							
【中期計画記載事項】	特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。							
【中期計画に対する評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>目標値を超える実績を得ることはできなかったが、中期計画を通じて、展覧会毎に作品鑑賞をより楽しむことができるように趣向を凝らした展示空間の演出を行うことができた。また、アンケートや直接寄せられた意見に対して、改善が必要な場合にはその都度迅速に対応することができた。新型コロナウイルス対策を万全に行い、安全な環境で来館者が観覧できるようにこれからも努めていく。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展								
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。									
担当部課	総務課	事業責任者	課長 大西真一						
【実績・成果】 (4館共通) ・館内で実施する記述式アンケートの集計結果及びウェブサイトを通じた当館への意見・要望を関係部署で共有し、改善に努めた。 ・正倉院展終了後、アンケート結果や来館者からの意見・感想を踏まえ、3年度以降の特別展開催に向けた反省会を行った。									
【補足事項】 ・例年、特別展や特別陳列の際にボランティアの協力のもと実施していた対面アンケートについては、新型コロナウイルスが拡大している状況を鑑み、2年度には実施しなかった。ただし、記述式アンケートを常時館内の複数箇所に設置するとともに、アンケート記入場所の付近に手指用アルコールを設置し、来館者が安心してアンケートに回答できるよう工夫した。 ・来館者対応業務を委託する外部業者と常に情報共有や意見交換を図りながら、よりよい来館者対応を目指して努力した。 ・正倉院展において、観覧環境の改善のため、元年度に引き続き基準より大きな手荷物の持ち込みを制限した。また、館外のコインロッカー・手荷物預かり所の利用促進のため、看板を設置するなど来館者への周知に努めた。									
									
【定量的評価】項目		2年度実績	目標値	評価		28	29	30	元
特別展の来館者アンケート満足度		91.1%	80%	B	経 年 変 化	86.4	88.1	89.8	91.4
よみがえる正倉院宝物展		90.8%	-	-		-	-	-	-
仏教美術名品展		- %	-	-		-	-	-	-
第72回正倉院展		91.3%	-	-		-	-	-	-
聖林寺十一面観音展		- %	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 記述式アンケートを館内の複数箇所に設置し、寄せられた意見・要望については、関係部署に情報を共有して適宜改善に努めた。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 2年度に開催した特別展における来館者満足度は、元年度に引き続き前中期目標の期間の実績以上の数値となり、中期計画を達成できた。次期中期となる3年度以降も引き続き、来館者の意見・要望を参考にしつつ、特別展における満足度向上のため努力する。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長 白井克也					
【実績・成果】 (4館共通) 2年度の特別展は「奈良・中宮寺の国宝」のみを開催し、同展における満足度調査を実施した。その結果、満足度は89.2%という高い水準に達した。作品や展示方法など、個別の質問においても高評価を得た。一方で、解説文の文字が小さいなどの指摘もあり、課題を残している。 新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、事前の日時予約制を導入した。また、音声ガイドの実施を取りやめるなどの措置を講じた点に対しては、一定の理解が得られた。 満足度とは別の指標であるが、アンケートの回収率が、通常よりも顕著に高い3.77%に達し、多くの意見を得ることができた。								
								
特別展「奈良・中宮寺の国宝」会場風景								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
特別展の来館者アンケート満足度	89.2 %	86%	A		85.9	87.2	86.7	84.0
古代エジプト	- %	-	-		-	-	-	-
海幸山幸	- %	-	-		-	-	-	-
加耶	- %	-	-		-	-	-	-
中宮寺の国宝	89.2 %	-	-	-	-	-	-	
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 2年度に唯一開催した「奈良・中宮寺の国宝」のみに対する評価であったが、様々な制約の中で実施した展覧会にも関わらず、高い満足度を得ることができ、計画を上回る成果であったといえる。 事前予約による入場などについて指摘された問題は、3年度以降の特別展運営において改善される見込みである。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、当館の特別展開催について、来場者から目標値に近い満足度が得られることができた。特に中期計画最終年度にあたる2年度においては、新型コロナウイルス感染予防の措置をとり、過去4年間の実績を超える満足度を得ることができた。以上より、中期計画を達成できたといえる。 次期中期計画においても、研究成果に立脚しつつ、作品の魅力を引き出す展示手法や、快適な観覧環境の構築など、引き続き努力を重ねたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	ウ 特別展「きもの KIMONO」(6月30日～8月23日) (目標来館者数10万人)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課工芸室 小山弓弦葉
【実績】			
展覧会名	特別展「きもの KIMONO」		 <p>告知ポスター</p>
会 期	6月30日(火)～8月23日(日)(48日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館		
主 催	東京国立博物館、朝日新聞社、テレビ朝日、文化庁、日本芸術文化振興会		
作品件数	294件(うち国宝4件、重要文化財22件)		
来館者数	91,830人(達成率-%)		
入場料金	一般1,700円、大学生1,200円、高校生900円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度93.1%		
【成果】			
企画構成 展示作品	日本の伝統衣装として知られる「きもの」が身分の差や老若男女を問わず人々の日常着として着られるようになった室町時代から現代までの歴史を、そのファッション性や日本独自の工芸としての視点でとらえ、着物を着用した人物を描いた絵画、マネキンに着付けた着装展示などを交えて、それぞれの時代の優品を中心に5章で構成し、展覧した。		
学術的意義	染織文化財の特別展は47年ぶりの開催である。日本文化の1つとして海外でも知られる「きもの」が、単に伝統衣装として存在するのではなく、日本の卓越した染織工芸技術によって培われた、現在も発展し続ける文化である意義を、日本の自然や風土に根差した四季感を意識しつつ、総数294件の優品によって紹介することができた。		
教育普及	当初は当館の大講堂において国際シンポジウム「日本文化としての『きもの』を考える」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、ギャラリートークおよび国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：6月29日実施138媒体218人出席。ポスター、チラシについては会期変更及び事前予約の導入等情報を更新して再制作。JR駅大型ボード、京王線電車内中吊りB3ポスターなど出稿。雑誌：芸術新潮、サライなど、テレビ：テレビ朝日「モーニングショー」、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」など。		
補 足	 <p>展示風景 (第1会場)</p>  <p>展示風景 (第2会場)</p>		
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	91,830人	100,000人※	—
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】 事前申し込み制を導入し入場制限等のコロナ感染対策を行わざるを得ない状況ではあったが、目標値に迫る来館者数を達成し、アンケートで満足度93.1%という結果からもわかるよう到来館者の満足度は非常に高かった。日本文化の特徴の1つである染織工芸について、「きもの」という伝統衣装を通して理解を深めることができた。		
評定：A			

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	ク 特別展「桃山—天下人の100年」(10月6日～11月29日) (目標来館者数12万人)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 田沢裕賀
【実績】			
展覧会名	特別展「桃山—天下人の100年」		 <p>告知ポスター</p>
会 期	10月6日(火)～11月29日(日)(48日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館		
主 催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁		
作品件数	231件(うち国宝17件、重要文化財94件)		
来館者数	82,808人(達成率-%)		
入場料金	一般2,400円、大学生1,400円、高校生400円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度91.2%		
【成果】			
企画構成 展示作品	安土桃山時代を中心に花開いた豪壮華麗な「桃山文化」を、室町時代末から江戸時代初期にかけての約100年間の美意識の変化に着目して7章に分け、絵画、書跡、武具、茶道具などの時代を代表する優品約230件の展示によって示した。		
学術的意義	「桃山文化」が政治史上の安土桃山時代に限られたものではなく、室町時代末を胎動期として始まり、江戸時代初期まで続いていることを示すと同時に、戦国武将が争う下剋上の時代から、江戸幕府による平和な治世へと移り変わるなかで、それぞれの時代の人々の意識を反映して変化していることを、約100年の期間で視覚的に示すことができた。		
教育普及	—		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：10月5日実施145媒体199人出席。ポスター、チラシ各種制作。東京メトロ駅看板など出稿。雑誌：日経おとなのOFF、サライなど、テレビ：NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など。また、展覧会公式サイトなどでも情報を発信。		
補 足	 <p>展示風景</p>  <p>展示風景</p>		
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価
来館者数	82,808人	120,000人※	—
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】 事前申し込み制を導入し入場制限等の新型コロナウイルス感染症対策を行っての運営であったため、入館者数は目標値に達しなかったが、大きな混乱はなく、来館者の運営に対する満足度も高かった。一つの時代を総合的に俯瞰し、時代の変遷を的確な作品選定によって視覚的に提示した学術的意義の大きい展覧会であった。また、来館者に対しても、これまでの同時代を扱った展覧会には類を見ない規模と質の高さによって、桃山文化の理解を高めることができ、内容に対する満足度も高かった。		
評価：A			

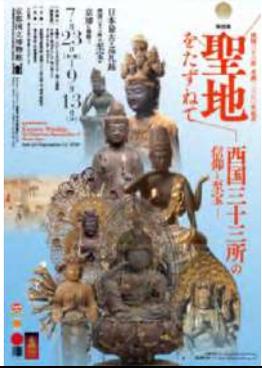
※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	ク 特別展「工芸2020—日本の工芸と自然—」(9月21日～11月15日) (目標来館者数5万人)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部特別展室長 猪熊兼樹
【実績】			
展覧会名	特別展「工芸2020—日本の工芸と自然—」		 <p>告知ポスター</p>
会 期	9月21日(月)～11月15日(日)(48日間)		
会 場	東京国立博物館 表慶館		
主 催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社ほか		
作品件数	82件(国指定文化財の該当なし)		
来館者数	13,851人(達成率一%)		
入場料金	一般 1,500円、大学生 1,000円、高校生 600円		
アンケート結果	満足度78.4%		
【成果】			
企画構成 展示作品	日本では、自然との共生による密接な精神的感性と固有の生命観が芽生えて我が国特有の工芸を発展させてきた。それは長い歴史と文化が形成されるなかで、変化に富む地形と四季折々の気候、そして豊かな風土に育まれた自然観を要因とすることが大きい。本展では、日本が世界に発信する芸術文化を牽引する現代の工芸作家82名による優れた近年の制作品を紹介する。		
学術的意義	芸術性を追求する工芸美術や日本の伝統美に立脚する伝統工芸の造形哲学を表した様々な工芸表現の作品を展示することで、工芸の魅力を国内外に発信し、その普及に努め、また、日本の工芸の特質である共生の精神性を表現し、現代社会が抱えるグローバルな課題に対して、日本から提言できる平和的メッセージとなることも目標とする。		
教育普及	特別展「工芸2020」オンライン国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：9月20日実施63媒体68人出席。ポスター、チラシ各種制作。JADビジョン、上野駅へポスター駅貼りなど出稿。雑誌：美術の窓、江戸楽、芸術新潮など、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など。また、展覧会公式ウェブサイトなどでも情報を発信。		
補 足	  <p>会場（東京国立博物館 表慶館）の外観</p> <p>展示風景</p>		
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価
来館者数	13,851人	50,000人※	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 事前申し込み制を導入し入場制限等の新型コロナウイルス感染症対策を行っての運営であったため、入館者数は目標値に達しなかったが、大きな混乱はなく、来館者の満足度78.4%との評価を得た。日本文化の柱の一つとして古来より継承されてきた工芸について理解を深め、また、芸術文化を牽引する現代の工芸を一堂に会する画期的な展覧会となった。		

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	コ 特別展「日本のたてももの—自然素材を活かす伝統の技と知恵」(12月23日～3年2月21日) (目標来館者数5万人)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部特別展室長 猪熊兼樹
【実績】			
展覧会名	特別展「日本のたてももの—自然素材を活かす伝統の技と知恵」		 <p>告知ポスター</p>
会 期	12月23日(水)～3年2月21日(日)(53日間)		
会 場	東京国立博物館 表慶館		
主 催	文化庁、日本芸術文化振興会、国立科学博物館、東京国立博物館、読売新聞社		
作品件数	19件(国指定文化財の該当なし)		
来館者数	20,447人(達成率-%)		
入場料金	一般1,500円、大学生1,000円、高校生600円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度79.3%		
【成果】			
企画構成 展示作品	本展は、木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へ昇華させた日本の伝統建築のうち、その縮小表現によって高い美意識と加工技術を際立たせた「建築模型」に焦点をあて、自然素材を活かした造形的特徴を飛鳥時代から現代建築まで通史的に俯瞰するものである。「日本博」および「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』」の一環として、国立科学博物館、国立近現代建築資料館との3館合同で開催した展覧会で、当館では、首里城模型の展示や、文化庁が国宝・重要文化財建造物を修理する際に、形態、技法などを検討し、その技を伝承するために製作してきた模型を活用し、特に古代から近世までの日本建築の成り立ちについて紹介した。		
学術的意義	日本の伝統建築は、木・草・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へと昇華させたものと言える。本展は、日本の建築を、高い美意識と加工技術を際立たせて縮小表現した建築模型、図面、道具など貴重な資料の展示を通して、自然素材を活かした造形的な特徴を古代から現代にいたるまで見てゆく。		
教育普及	—		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：12月23日実施75媒体96名出席。ポスター、チラシ各種制作。交通広告：JR上野駅などでデジタルサイネージ、東京メトロ主要駅にてポスター駅貼りなど出稿。雑誌：美術の窓、江戸楽、新建築など、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など、ウェブサイト：ニコニコ生放送「ニコニコ美術館」など。また、展覧会公式サイトなどでも情報を発信。		
補 足	 <p>展示作業の様子</p>  <p>展示風景</p>		
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価
来館者数	20,447人	50,000人※	—
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価：B	事前申し込み制を導入し入場制限等の新型コロナウイルス感染症対策を行っての運営であったため、入館者数は目標値に達しなかったが、大きな混乱はなく、来館者の満足度も高かった。木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へ昇華させた日本の伝統建築の造形的特徴について、建築模型を通じて理解を深めることができた。		

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	ア 西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」(7月23日～9月13日) (目標来館者数7万人)		
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品管理室長 羽田 聡
【実績】			
展覧会名	西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」		
会 期	7月23日(木)～9月13日(日) (47日間)		
会 場	京都国立博物館 平成知新館		
主 催	京都国立博物館、西国三十三所札所会、読売新聞社		
作品件数	170件 (うち国宝12件、重要文化財45件)		
来館者数	52,164人 (達成率: 74.5%)		
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円		
アンケート結果	満足度 82.7%		
【成果】			
企画構成 展示作品	<p>展覧会は次の6章から構成されている。</p> <p>第1章 説かれる観音 第2章 地獄のすがた 第3章 聖地のはじまり 第4章 聖地へのいざない 第5章 祈りと信仰のかたち 第6章 巡礼の足あと</p> <p>第1章では奈良・岡寺の菩薩半跏像、館蔵の千手千眼陀羅尼経残巻(玄昉願経)、第2章では滋賀・聖衆来迎寺の六道絵、館蔵の餓鬼草紙、第3章では奈良・長谷寺発起院の徳道上人像、和歌山・粉河寺の粉河寺縁起絵巻、第4章では滋賀・観音正寺の西国三十三所観音曼荼羅、大阪・施福寺の施福寺参詣曼荼羅、第5章では京都・松尾寺の如意輪観音像 一山一寧賛、和歌山・粉河寺の千手観音立像、第6章では滋賀・石山寺の西国三十三所巡礼札、奈良・長谷寺の長谷寺経などを展示した。</p>		
学術的意義	<ul style="list-style-type: none"> ・西国三十三所草創1300年を機として、札所の3分の1が集中するゆかりの深い京都で開催された大規模総合展であった。 ・秘仏である京都・頂法寺の如意輪観音坐像が寺外へ初めて出陳された。 ・和歌山・青岸渡寺と東京国立博物館に分蔵される那智山経塚出土の金剛界曼荼羅成身会大壇具を会し、立体曼荼羅として展示した。 		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会 (5回) 7月23日「西国巡礼 慈悲の道」藤田 浩哉 氏 (西国三十三所札所会 会長・今熊野観音寺 山主) 8月8日「資料からみる西国三十三所」羽田 聡 (京都国立博物館 美術室長兼列品管理室長) 8月22日「西国三十三所、観音めぐり」浅湫 毅 (京都国立博物館 上席研究員) 8月29日「信仰の息づく霊地ー那智山経塚出土の立体曼荼羅ー」末兼 俊彦 (京都国立博物館 主任研究員) 9月5日「経典にみる観音菩薩」上杉 智英 (京都国立博物館 研究員) ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、京博ナビゲーターの案内によるワークショップを中止し、代わりに「解説プリント」(日・英・中・韓)と、ブックカバーにもできる観音の「オリジナルぬりえ」を配布した。 		
その他 (運営・広報・サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営：前期・後期のいずれも三十三所の作品が展示されるように展示を行った。 ・広報等：各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。 虎ブログ (6回)、YouTube トラりんチャンネル展覧会 (2回)。 		
補 足			
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価
来館者数	52,164人	70,000人※	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 来館者目標には及ばなかったが、新型コロナウイルスの感染拡大の中、会期を変更し、感染防止対策に努めることで、ゆかりのある京都にて、西国三十三所草創1300年を機とした大規模な展示を実現できたことの意義は大きい。		

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	ア 御即位記念 特別展 「皇室の名宝」(10月10日～11月23日) (目標来館者数10万人)		
担当部課	学芸部	事業責任者	企画・工芸室長 山川 暁
【実績】			
展覧会名	御即位記念 特別展 「皇室の名宝」		
会 期	10月10日(土)～11月23日(月) (39日間)		
会 場	京都国立博物館 平成知新館		
主 催	京都国立博物館、宮内庁、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿		
作品件数	98件(うち国宝 4件、重要文化財 3件)		
来館者数	85,315人(達成率:85.3%)		
入場料金	一般 1,800円、大学生 1,200円、高校生 700円		
アンケート結果	満足度 81.8%		
【成果】			
企画構成 展示作品	<p>天皇陛下の即位とともに令和の世を迎えたことを祝い、宮内庁三の丸尚蔵館の収蔵品と日本の宮廷で培われた文化を、皇室ゆかりの地である京都において紹介するために企画された展覧会。</p> <p>第一章「皇室にどう書画」では、「喪乱帖」(王羲之筆)、「春日権現縁起絵巻」(高階隆兼筆)、「動植綵絵」(伊藤若冲)など、三の丸尚蔵館が収蔵する名だたる作品を紹介し、第二章「御所をめぐる色とかたち」では、かつて京都御所で繰り広げられた宮廷生活を追体験できるよう、「礼冠」「礼服」など江戸時代以前の即位礼を髣髴させる品々や、宮廷周辺で享受された屏風や古筆の名品、天皇の肖像画や宸翰、京都御所を飾った調度類などを、三の丸尚蔵館のみならず宮内庁諸機関の収蔵品も交え紹介した。</p>		
学術的意義	<p>第一章の展示を通し、これまで東京以外ではまとまって公開されることがなかった宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品を、関西の地でまとまって公開することができた。皇室コレクションの概要を来館者に提示し、その質の高さを伝えるとともに、伝統文化への興味関心を喚起した。</p> <p>第二章での展示を通し、宮廷が常に、海外からの先進文化を受け入れ、日本人の美意識のもとに熟成させ、新たな文化を創出する中核であったことを示すことができた。宮廷文化のありようが、さまざまな文化に触れながら独自の感性で新たな製品を生み出していく現代日本の姿に共鳴することを提示した。</p> <p>三の丸尚蔵館、京都事務所、書陵部など、宮内庁諸機関の研究員との交流により、博物館が作品研究を進めるうえでの新たな視点を獲得することができた。</p>		
教育普及	<p>展示題箋(日英中韓)、音声ガイド(日英)の作成。鑑賞ガイド「宮廷美術ことはじめ」(日英中韓)の配布。展示映像「華麗なる皇室の名宝」の上映。展覧会図録「皇室の名宝」(日)の作成。</p> <p>三の丸尚蔵館研究員と当館研究員により、会期中以下の6回の記念講演会を開催し、各回100名が参加した。</p> <p>「宮廷と日本文化一雅な文化、その継承のころ」(10月10日)、「皇室に伝わった絵巻の至宝一春日権現縁起絵巻を中心に」(10月17日)、「皇室を彩る絵画一旧桂宮家伝来品を中心に」(10月24日)、「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来一“禁裏御物”と諸家献上」(10月31日)、「伏見天皇と<屏風土代>一天皇の書風形成一」(11月7日)、「御所をめぐる色とかたち」(11月14日)。</p>		
その他 (運営・広報・サービス等)	<p>展覧会広報展開期間中は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため府県をまたいでの移動への懸念が高まっていた時期にあたり、従来通り実施すべきか共催者とも協議を重ねた。その結果、対面での記者発表は避けオンライン配信とし、招待券の配布を伴う広報は基本的に廃止した。ただし、近畿圏の交通広告などは従来通り実施した。以上のような対応であったにもかかわらず、京都で開催する御即位記念展への関心は高く、ウェブサイト、新聞、テレビ、雑誌など各種の媒体に取り上げられた。</p> <p>運営においては、感染防止対策を徹底するとともに、オンラインによる事前予約優先制度を初めて導入し、展示導線においてソーシャルディスタンスを確保できるよう人数制限を実施した。また、夜間開館の実施は見送った。当日券も一定数確保し、当日券の時間ごとの残数をツイッターで逐次情報提供したことにより、オンライン予約が困難な層、ツイッターを使いこなす層、ふたつの層に対応することができた。</p> <p>一方で、来館を希望しても難しい人々への一助として、共催者であるNHKの特集番組「皇室が守り続けた“いのちの美”」作成にあたっての8K撮影に全面的に協力し、展覧会の魅力を一部ではあるが、テレビ放映を通して広く紹介するとともに、当館公式キャラクターによるブログにて3回にわたってオンライン配信を行った。</p>		
補 足			
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価
来館者数	85,315人	100,000人※	—
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価：A	<p>人数制限をせざるを得ない状況下ではあったが、御即位記念という時宜を得た特別展への関心の高さもあり、有料率は約85%と展覧会の収益面で成果を上げることができた。また、平成28年度から毎年度皇室に関わる特集展示をしており、その集大成ともいえる内容の展覧会を開催できたことは学術的成果としても大きい。</p>		

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	ア 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」(7月4日～9月6日) (目標来館者数5万人)		
担当部課	学芸部	事業責任者	列品室長 中川あや
【実績】			
展覧会名	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」		
会 期	7月4日(土)～9月6日(日)(56日間)		
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館		
主 催	宮内庁正倉院事務所、奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局		
作品件数	123件		
来館者数	42,846人(達成率:85.7%)		
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円		
アンケート結果	満足度 90.8%		
	 <p>告知チラシ</p>		
【成果】			
企画構成 展示作品	天皇陛下の御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、宮内庁正倉院事務所・当館・東京国立博物館が所蔵する正倉院宝物模造品を一同に集めて公開する特別展。奈良博覧会や正倉院御物整理掛での宝物修理を契機とする明治期の模造作品や、昭和47年以降に宮内庁正倉院事務所により始められた再現模造事業による模造作品を、楽器、仏具、染織、調度など6つのテーマに沿って123件展示した。		
学術的意義	明治時代に制作が始まる正倉院宝物の模造は、単なる「レプリカ」ではなく、正倉院宝物の修理や自然災害の下での危機管理要請など様々な社会情勢を背景としたものである。各模造作品は、宝物の最新の調査研究成果と日本の伝統技術の融合によって生み出された究極の工芸品で、本特別展は、天平の色彩や技術に触れられると共に、わが国の伝統技術を将来に継承する意義の感じられる、絶好の機会である。		
教育普及	無料配布のジュニアガイドを編集し、8,000部刊行した。 このほか、講演会3回、関連ワークショップ2回、関連イベント(雅楽コンサート)1回を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から展覧会が当初の日程から変更になったことと合わせ、中止とした。		
その他 (運営・広報・サービス等)	主催者による報道発表を東京と奈良で各1回実施した。当初は4月18日～6月14日に開催予定であったが、新型コロナウイルスにより博物館自体が2月27日～6月1日まで閉館となったため、新会期日程を入れた広報用ポスター・チラシを新たに制作し、新会期の周知に努めた。また、入館者数制限を設け、一定の人数に達したら入口前に待機してもらうようにした。会場内ではソーシャルディスタンスをとれるよう、床に立ち位置サインを貼り、ケースや動画モニター前での混雑回避に努めた。		
補 足			
【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評価
来館者数	42,846人	50,000人※	—
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス流行により、遠方からの来館者や毎夏多数来館実績のあった外国人来館者が大幅に減少したにもかかわらず、目標値の85%の来館者数を得られたことは大いに評価できる。		

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】 ア 特別展「第72回正倉院展」(10月24日～11月9日) (目標来館者数5万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤 栄
【実績】			
展覧会名	特別展「第72回正倉院展」		
会 期	10月24日(土)～11月9日(月)(日間)		
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館		
主 催	奈良国立博物館		
作品件数	59件(うち国宝0件、重要文化財0件)		
来館者数	36,344人(達成率:72%)		
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生無料		
アンケート結果	満足度91.3%		
告知チラシ			
			
【成果】			
企画構成 展示作品	正倉院宝物約9,000件から代表的な宝物、近年研究の進展した宝物など59件を選び公開した。2年度は薬物、武器・武具がまとまった件数が出陳されたほか、遊戯具、花氈、鏡、染織品、刀子、箱、机、文書、経巻などが出陳され、宝物の全体像を観覧する構成となった。また、休憩コーナーでは花氈の再現模造品を展示し、花氈の制作工程をわかりやすく説明することができた。		
学術的意義	近年材料や制作技法が明らかとなった花氈、色氈が3件展示された。それに合わせて復元模造品を制作工程見本、制作風景の動画を展示した。また、正倉院展ではこれまで題せんに制作された国や時代を表記してこなかったが、現段階の研究成果による見解を表記した。展覧会図録では薬物の献納と武器・武具の献納を取り上げた概説、出陳宝物のうち注目される品に関する論考を掲載した。		
教育普及	新型コロナウイルス感染症の影響下による来館者数の制限に伴い、インターネットの動画配信を行った。動画はテレビ局、新聞社の協力による4K映像で撮影され、研究員が館内をギャラリートークする形式を取った。また、館独自でも宝物解説、正倉院宝庫における点検・梱包作業、博物館における開梱・展示作業風景を撮影し配信した。また、講座は予約制とし、2回実施した。例年実施しているボランティアによる講堂での解説は実施できなかったが、音声ガイドの日本語版は来館者の26.3%が利用した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	正倉院展は例年17日間で20万人以上が来館するため、混雑対策として入館券は日時指定予約制を導入した。1時間の人数は300人前後と決め、予約はネットと電話で受け付けた。入館券は開幕前に完売したが、事前の広報を入念に行ったため、当日券を求めて来館するといったトラブルは少なかった。案内スタッフとの綿密な打ち合わせを行ったため入館時や観覧時の混乱もなかった。展示会場は展示物の距離を保ち、また車椅子の方にも見やすいよう展示物を低く設置した。ソーシャルディスタンスが十分に確保できる人数に限定したこともあり、観覧者には鑑賞しやすいと好評であった。なお、観覧料金は例年より値上げしたが、アンケートでは鑑賞しやすさを評価する意見が多く、料金についての指摘はほとんどなかった。 来館できない方が増えると予想されたため、図録やグッズを当館のホームページ以外に特別協力の読売新聞社の特設ページからも購入できるようにするなど、販売ツールの多角化を行った。		
補 足	目標人数5万人を下回った理由は、チケットを購入しても来館しなかった方がいたこと、招待者枠であるプレミアムカード会員や賛助会員が来館をひかえたことなどが考えられる。		
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	36,344人	180,000人※	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 例年通りの開催方法ならば混雑が予想されたため、入館方法、展示方法、広報、教育、販売などに対応が必要であったが、各部署が協力し成功に導くことができた。日時指定予約制で入館者数を制限する等の感染症対策を行った結果、来館者数が例年より大幅に減少したが、感染者を出すこともなく、来館者からも「快適に観覧できた」という満足度の高いご意見をいただいた。		

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
エ 特別展「奈良・中宮寺の国宝」(3年1月26日～3月21日) (目標来館者数6万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 小泉恵英
【実績】			
展覧会名	特別展「奈良・中宮寺の国宝」		
会 期	3年1月26日(火)～3月21日(日) (48日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	中宮寺、九州国立博物館・福岡県、日本経済新聞社、西日本新聞社、TVQ		
作品件数	89件 (うち国宝3件、重要文化財13件)		
来館者数	50,432人 (達成率: 84.0%)		
入場料金	一般1,800円、高大生1,200円、小中学生800円		
アンケート結果	満足度 89.2%		
【成果】			
企画構成 展示作品	中宮寺は、飛鳥時代に奈良・斑鳩の地に創建された尼寺である。本展では本尊の「菩薩半跏思惟像」と、聖徳太子の妃が太子の往生を願って制作した「天寿国繡帳」の二つの国宝を中心に据えて、古代から近世にいたる中宮寺の歴史を伝来した数々の寺宝からひも解いた。さらに本尊の造形のルーツをたどるため、ガンダーラ、中国、朝鮮半島、日本のアジア各地で作られた半跏思惟像を展示し、また文学者や写真家の作品から近代における本尊への賛美の姿を紹介した。		
学術的意義	中宮寺の寺宝を一室で紹介する展覧会は、本展が約30年ぶりのこととなる。本展では、この間における歴史学、考古学、美術史学の研究成果を反映し、中宮寺の歴史を新たな視点で捉え直すことができた。また、中宮寺では「如意輪観音」としてまつられる本尊をアジアの半跏思惟像の展開の中に位置づけ、飛鳥時代の制作当初の尊名について検討を行った。なお、中宮寺では本尊を前方からしか拝観できないが、造作や照明を工夫し、本展では360度全方向から鑑賞できるようにした。		
教育普及	会場内では、中宮寺の歴史や半跏思惟像に対する理解を促進するため、写真を多用した解説パネルを掲出した。主要な作品キャプションは日本語のほか英語・中国語・韓国語でも表記し、外国人来館者も理解できるよう工夫し、また、障がい者が認識しやすい字体を用いバリアフリー対応にも力を入れた。会期中は動画配信による展示解説を行い、九州及び日本全国の人々が中宮寺展に触れる機会をつくり、展示内容に関する理解を深めるよう促した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	本展は、本尊が九州で初めて公開される機会となる。ポスター・チラシ、交通広告、テレビCMで本尊の美を積極的に伝えるとともに、仏像愛好者のみならずあらゆる世代の人びとが仏像に関心をもてるよう工夫した。 また、本展は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、事前予約制を導入した。		
補 足			
【定量的評価】 項目	年度実績	目標値	評価
来館者数	50,432人	60,000人※	-
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 九州初公開となる中宮寺蔵の半跏思惟像を、研究成果に基づいて展示した。また、革新的な照明技術を採用して、質の高い展覧会とした。ただし、新型コロナウイルスの流行に伴う緊急事態宣言下での展覧会開幕となり、事前予約制の導入や団体入場の禁止などの措置をとらざるを得ず、来館者の目標値には一歩及ばなかった。 今後、展覧会開催における新型コロナウイルス感染防止対策に関しては、引き続き改善を図っていく。		



告知チラシ

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③ 観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (東京国立博物館) ア トーハク新時代プランに基づき、多言語による案内、デジタルサイネージ及び誘導サイン等を順次整備する。 イ トーハク新時代プランに基づき、より快適な観覧環境を構築するため、展示ケース・照明・内装など展示室等をリニューアルする。								
担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 列品管理課 平常展調整室	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 城山美香 特別展室長 猪熊兼樹 デザイン室長 矢野賀一 国際交流室長 楊鋭 課長 丸山士郎 室長 皿井舞					
【実績・成果】 (4館共通) ア ・平常展における題箋および解説等について、4言語にて情報提供を行った。 イ ・異音が発生し、来館者等の利用に際し安全性や快適性のバリアとなっていた法隆寺宝物館の自動扉について、ドアエンジンや起動センサーを更新し、安全かつ快適な観覧環境を構築した。 ・本館17室保存修復展示室の展示ケースおよびグラフィックを刷新、ディスプレイを導入し鑑賞環境の向上を図った。 ・本館展示室内の休憩用ソファを増設するとともに快適性、デザイン性の高いものに刷新し、満足度の向上を図った。 (東京国立博物館) ア ・本館1室、4室及び9室に、展示作品の理解や鑑賞に供するための映像コンテンツを設置し、本館11室前、20室前及び便殿前に、多言語による案内用のデジタルサイネージを設置した。 イ ・展示室として使用されていなかった本館特別3室の内装改修等リニューアル工事を実施し、3年6月(予定)のオープンに向けて整備を実施した。 ・本館の展示テーマごとに設置していたグループ解説のデザインを入口解説などにあわせてデザインを一新し、課題の改善を行った。								
【補足事項】 イ 館内の高頻度接触箇所の定期的な消毒、会場内の滞留人数や温湿度の管理を徹底し、新型コロナウイルス感染拡大防止への対策を行った。博物館の対策を案内するとともに、来館者に協力を依頼する事項をウェブサイトに記載し、動画「ご来館のお客様へのごお願い」を制作・公開した。また、会場内では定期的に館内放送を流し、全ての来館者が安心して観覧できる環境づくりに努めた。								
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
音声ガイド貸出回数	22,145台	—	—	化	177,522	282,187	218,982	334,164
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 障害となっていた施設・設備を改修更新することにより、観覧環境の安全性や快適性を高めた。 またデジタルサイネージを導入するなど、従来よりも多くのデバイスを利用して、来館者等が日本文化に親しんでいただく観覧環境を整備した。 更に総合文化展の音声ガイドは、日英2言語対応だったアプリ(トーハクナビ)を更新し、2年度より4言語(日・英・中・韓)全てをアプリで提供する形とし、来館者サービスの向上に繋げることができた。特別展のうち、桃山展、工藝2020展、日本のたてもの展は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、音声ガイドの提供を見送った。							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、トイレの洋式化、車いす、ベビーチェア、オストメイト対応の多目的トイレの設置やスロープや手すりを設置することにより博物館内施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の充実を図った。 また継続的に観覧環境の改善を行った。「トーハク新時代プラン」を公表し、元年度・2年度は多言語化の充実のため、本館を中心に解説を日本文化になじみの薄い来館者にもわかりやすいよう刷新するとともに、展示の文化的な背景を補足するコーナー解説を新設した。また、多言語によるデジタルサイネージの設置や多言語音声ガイドアプリの開発を行った。さらに、国内外で特に人気の高い刀剣等が展示される本館13室をリニューアルした。 以上のことから中期計画を上回る成果をあげたといえる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供 2/2							
【年度計画】 (東京国立博物館) ウ トーハク新時代プランに基づきリニューアルした多言語対応型の鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」を運用する。 エ 講座・講演会の会場におけるヒアリンググループの設置・管理、スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等、障がい者のための環境整備を充実させる。 オ 「総合案内パンフレット」(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を制作・配布する。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、4言語(日、英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布する。 キ トーハク新時代プランに基づき、外国人にも分かりやすい展示解説の工夫に取り組む。 ク 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。 ケ トーハク新時代プランに基づき、レプリカ・VR・8K映像等を活用した新感覚の展示を行う。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長 竹之内勝典 教育普及室長 藤田千織 室長 鬼頭智美					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ウ、キ リニューアルしたアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase との連携を図り、最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みを整えた。また、展示室内に設置したビーコンとシステムを連動させることで、スムーズに解説を提供し、注目すべき作品への理解の促進を図った。「浮世絵」「鏡」「自在置物」等について、直感的な操作でそのしぐみを学ぶインタラクティブコンテンツを開発し、アプリに搭載した。また、新たに200件弱の平易な4言語(日、英、中、韓)による作品解説を作成し、システムに追加した。27年4月より継続してユーザーログを集積。新たにアプリに搭載した Google Analytics のデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、より精度の高いデータを集積できる仕組みを整えた。 エ 新型コロナウイルスの影響を勘案し、ユニバーサルデザインの触知図による対応は中止したが、かわりに、点字による総合案内のパンフレットを引き続き制作・配布を行った。 オ 3年度「案内と地図」(総合案内パンフレット)(7言語(8種)):日46,000部、英15,000部、中(簡体字7,500部・繁体字2,500部)、韓3,500部、仏3,000部、西1,000部、独1,000部)を制作した。なお、開館時間等が流動的になっても配布できるよう、途中変更の多い部分は割愛、基本情報のみとするよう調整した。また、2年度「案内と地図」については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外国人の来館が激減したため、日、英のみ訂正シール貼付のうえ配布した。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布した。 ク 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、利用者の安全を第一に考え、2年度の託児サービス提供は見送った。一方で、利用者の充足率向上に向けて、サービス提供の開始に合わせた取り組みを検討した。 ケ 5G通信システムと、ARグラス、5Gスマートフォンを活用した文化財の新しい鑑賞体験「5Gで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』をKDDI、文化財活用センターと共同で開発、実施し、1,437名が体験した。また、凸版印刷株式会社、文化財活用センターと共催で、ICTを活用した新感覚の展示「バーチャルトーハク」を開設し、バーチャル上で特別展「アノニマス 一逸名の名画」(特別協力スタジオ地図)を実施した(「バーチャルトーハク」延べアクセス人数 3,374人)。 ・親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン! なりきり日本美術館リターンズ」として、高精細映像やレプリカを活用した体験型のインタラクティブな展示を行った。								
【補足事項】(東京国立博物館) ウ アプリの2年度のダウンロード数は以下の通りである。 ・Android版「トーハクなび」 1,875件(累計1,876件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計23,483件 H24年4月18日～R2年3月31日公開) ・iOS版「トーハクなび」 3,932件(累計3,932件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計56,980件 H24年4月18日～R2年3月31日公開)								
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により中止した事業もあったものの、公開中のアプリ「トーハクなび」は計2,355件のダウンロード実績をあげた。作品解説件数も目標の900件を達成した。利用者は館内のみならず自宅からも博物館の文化財の解説やインタラクティブコンテンツにアクセスすることができ、継続的な教育事業の提供に寄与した。 また、5G通信システムを利用した新しい鑑賞体験の提供や、ICTを活用したバーチャル空間での展覧会など、新感覚の展示を実施した。特に、「5Gで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』」のアンケートでは、「作品への理解が深まった」の回答が93.3%に上った。							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 2年度はパンフレットの制作・配布、ガイドアプリの公開・貸出による多言語化、聴覚障がい者向けの設備の充実、託児サービスやキッズデーによる子ども連れの来館者への配慮などについては、新型コロナウイルス感染症の発生により、従来の手法を大きく変更せざるを得なかった部分もあるが、オンライン配信への切り替えやこれにともなうコンテンツの開発など、一定の成果を上げ、中期計画を遂行できた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供								
【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (京都国立博物館) ア 館内案内リーフレット(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を継続して配布する。 イ デジタルサイネージやSNSを活用し、効果的な情報発信を図る。 ウ スマートフォンアプリを活用し、屋外展示、敷地内遺構(方広寺大仏殿)、建物等をガイド(日、英)する体験型コンテンツを開発する。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 西尾佐枝子 企画室長 山川暁						
【実績・成果】 (4館共通) ア 平常展及び特別展において、題箋及び解説等並びに音声ガイドを用いて情報提供を継続して4言語(日・英・中・韓)に対応した。ただし、特別展音声ガイドについては新型コロナウイルスの影響により、2言語(日・英)での対応とした。 イ 庭園部に照明が少なく、夜間の通行に支障があったところ、庭園全体のライトアップ工事を実施したことで来館者が通行しやすく、屋外展示を夜間にも鑑賞しやすい環境を整備した。 (京都国立博物館) ア 館内案内リーフレット(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を継続して配布した。 イ デジタルサイネージを効果的に活用してレストランを含めた館内各施設を紹介することができた。また、緊急災害時はTwitterを活用して、臨時閉館情報等を日・英・中・韓の4言語で案内することができた。 ウ 打合せを行い、開発に向けて計画作成を行った。									
【補足事項】 ア <ul style="list-style-type: none"> 特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」では仏像に詳しい著名人が音声の一部を担当した音声ガイドを作成した。作品解説だけでなく、著名人2人の掛け合いを楽しむことができる内容になっており、展覧会の楽しみ方を広げることができた。 平常展で提供する音声ガイドに関して、ジュニア版を作成した。これまで大人向けの内容となっていたが、なるべく平易な表現を使い、親しみやすいキャラクターが語りかけることにより若年層がより楽しめるように工夫した。 特別展「皇室の名宝」では4言語(日・英・中・韓)で解説した鑑賞ガイドを配布した。展覧会場の入口にて配布し、より理解を深め、一層楽しめる内容を各言語にて紹介した。 <div style="text-align: right;">  <p>西国展音声ガイド案内板</p> </div> <p>音声ガイド利用台数</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」(2言語 日・英) 9,961台 特別展「皇室の名宝」(2言語 日・英) 15,544台 名品ギャラリー(4言語 日、英、中、韓) 992台 									
【定量的評価】項目		2年度実績	目標値	評定	経年	28	29	30	元
音声ガイド貸出回数		26,497台	—	—	変化	36,584	128,728	104,463	50,191
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 名品ギャラリーの音声ガイドのジュニア版を制作することにより若い世代の人たちが快適に観覧を楽しめる環境を整えることができた。 館内施設のバリアフリー化を推進した。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 館内における新型コロナウイルス感染防止の対応案内等を多言語化することができた。 中期計画期間全体としても、快適な観覧環境の提供のため、博物館内の施設のバリアフリー化や多言語化を推進することができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供							
<p>【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (奈良国立博物館) ア 快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。 イ 誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。 ウ 正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。 エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 オ 多言語による案内について充実を図る。</p>								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	大西真一				
<p>【実績・成果】 (4館共通) イ ・日本博物館協会ガイドラインに従い、新型コロナウイルス感染症拡大予防策として、館内の消毒や換気の実施、従業員の健康管理及び手指消毒並びにマスク着用などの基本的な対策を徹底した。また、来館者にも検温やマスク着用などの協力を求めることで、少しでも安全な環境で観覧していただけるように努めた。 ・6月より、なら仏像館の鑑賞ガイド(日・英・中・韓)を従前の音声ガイドからリニューアルした。リニューアルによって作品解説をガイド機の画面上で見られるようになり、耳の不自由なお客様にもガイドの内容を楽しんでいただけるようになった。 ・御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」(日・英・中・韓)及び「第72回正倉院展」(日・英)では、有料の音声ガイドスクリプトを準備し、耳の不自由なお客様にも音声ガイドの内容を楽しんでいただけるよう工夫した。「第72回正倉院展」では、1件のスクリプト貸出があった。 (奈良国立博物館) ア 展示室の適正な温湿度管理のため、空調設備メンテナンス計画に基づき、機器の修繕を行った。 イ 館内の施設のバリアフリー化の一環として、公道から玄関までの舗道整備を行った。 なら仏像館に向かう休憩用ベンチ及び撮影ポイントを設置した。 ウ 2年度は、新型コロナウイルスに関する対策を優先するべく、例年正倉院展の際に実施していた託児室の設置を取り止めた。その代わりに、正倉院展期間中には救護スペースを増設するとともに看護師を常駐させ、来館者が安心して観覧できるよう工夫した。 エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中:簡体字・繁体字、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 オ 総合案内カウンターに外国語(英・中)対応が可能なスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応の充実を目指した。 カ 館内の日本庭園について一般公開を目的としたWGを立ち上げ検討し、改修設計を行った。</p>								
<p>【補足事項】 (4館共通) イ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、館内の各所に手指用アルコールを設置するなどの対策を行った。また、対策の内容や観覧にあたってのお願いを記載したパネルや看板を作成して来館者への周知に努めたほか、定期的に館内放送でも案内した。 (奈良国立博物館) ウ 2年度の正倉院展では、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として前売日時指定券制度を導入したため、例年のように館内が混雑する状況とはならなかった。そのため、混雑状況・待ち時間の速報は行わなかったが、入館方法についての案内看板を新設するなど、快適な観覧環境の提供のために努力した。</p>								
								
<p>第72回正倉院展 「観覧にあたってのお願い」 看板 入館方法についての案内看板</p>								
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
音声ガイド貸出台数	16,010台	-	-		42,210	63,751	63,299	67,512
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 多くの来館者が想定される特別展の際には案内看板を増設するなど、来館者の利便性向上及びよりよい観覧環境の提供に努めた。 入館料改定により、館内案内リーフレットを7言語で制作した。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 音声ガイドスクリプトの導入などを通じて、より幅広い層の来館者に博物館を楽しんでいただけるよう工夫した。託児室の設置など、新型コロナウイルスの影響により実現できなかった内容もあるが、快適な観覧環境の提供という中期計画は達成できたと言える。引き続き、よりよい観覧環境の提供を目指して努力していく。 なお、館内案内リーフレットを7言語で制作したものの、インバウンド減少のため消費されなかった。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																									
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供																									
【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (九州国立博物館) ア 快適な観覧環境を保持するため、サインや照明等の空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。 イ 展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し、分かり易い情報発信に努める。 ウ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 エ 音声ガイド(4言語:日、英、中、韓)の内容充実に努める。																										
担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長 白井克也 課長 楠井隆志 課長 執行正一																							
【実績・成果】 (4館共通) ア 特集展示「しきしまの大和へー奈良大発掘ー」(7月28日～12月20日)では、解説に用いるフォントを日英中韓のいずれもユニバーサルデザイン(以下UD)フォントを用いることで、会場での文字の視認性を高めた。 イ <ul style="list-style-type: none"> 文化交流展示室第7室企画展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」(9月8日～11月23日)において、点字付きのキャプション(白黒反転文字・UDフォント使用)・チラシ・ガイドブック(銅印「大宰之印」)を作成し、展示室内で配布した。特に点字付きガイドブックは、印面が分かるような盛り上げ加工を施し、大きさや文字の形が分かりやすいと好評を得た。点字付きのキャプション台を設置し、白杖などの杖を置く器具を取り付けた。また、車椅子の来館者も利用しやすい台を選び、動線の確保を行った。 ユニバーサルミュージアム推進の一環として、視覚障がいのある方にも文化交流展示を楽しんでいただくための点字・触知図付展示室マップを製作した。 新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、以下のような対応を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ①非接触サーモグラフィーでの検温 ②来館者はマスク着用必須、ヘルスチェックシートに記入 ③来館者同士2mの距離をとるよう呼びかけ、導線を配置 ④足踏式消毒液を設置 ⑤展示室は200人/時までで入場制限(文化交流展。その後350人/時まで緩和) ⑥10人以上の団体はお断り ⑦スタッフはフェイスシールドやマスクを着用 (九州国立博物館) ア <ul style="list-style-type: none"> 文化交流展示室第6室(仏教美術)の改修工事を行い、露出展示用の展示台を新規作成することで、彫刻作品の背面も鑑賞できる展示へとレイアウトを改めた。 題箋や小テーマパネルなどの従来の解説に加え、補助解説パネルを増やすことでよりわかりやすい展示に努めた。 イ 季刊情報誌「アジアージュ」では、平常展を継続して取り上げ、広報に努めた。 ウ 館内案内リーフレットを継続して7言語(日、英、中、韓、仏、独、西)で制作し配布した。 エ 新型コロナウイルスの感染予防対策のため、開館再開以降、スーパーハイビジョンシアター及び装飾古墳映像コーナーの上映を中止、また、音声ガイド機器の貸出を停止している(装飾古墳映像コーナーは3年3月9日より、感染防止対策を施したうえで再開した)。																										
【補足事項】																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>2年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th>経年変化</th> <th>28</th> <th>29</th> <th>30</th> <th>元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音声ガイド貸出回数</td> <td>0 台</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>98,845</td> <td>52,425</td> <td>65,167</td> <td>69,176</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元	音声ガイド貸出回数	0 台	-	-		98,845	52,425	65,167	69,176
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元																		
音声ガイド貸出回数	0 台	-	-		98,845	52,425	65,167	69,176																		
【年度計画に対する総合評価】 評価: B			【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、ハンズオン展示、オーディオ機器やタッチパネルを用いた展示が一部休止となった。しかし、点字の解説やチラシを用いた展示を行ったり、会場に鐘や銅鐸など展示物の音を流したりするなどして、快適な観覧環境を実現した。																							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。																										
【中期計画に対する評価】 評価: B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、館内のUD化やバリアフリー化を実施したことで中期計画を遂行した。2年度においても、エントランスホールのバナー設置、英語表記の見直しや、UDや5言語(日・英・中(簡・繁)・韓)を取り入れた館内案内看板の設置等を中期計画に沿って実施した。また、元年度実施したユニバーサルミュージアムに関する研修会により職員の知識が向上し、展示の一部にUDフォントを取り入れるなど、快適な観覧環境を向上させることができた。																							



特集展示「しきしまの大和へ」におけるUDフォントの使用

【書式A】	施設名	東京国立博物館	処理番号	1232A				
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等							
【年度計画】 (4館共通)	<p>ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。</p> <p>イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。</p> <p>ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。</p> <p>エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (東京国立博物館)</p> <p>ア 特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。</p>							
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】 (4館共通)	<p>ア 観覧環境に関する来館者アンケートの集計方法を、従前の会場内に設置する形から、直接来館者に依頼する形に変更したことにより、より幅広い意見を集めることができた。</p> <p>イ 当館所蔵品となって以降、評判の高い作品である伊藤若冲「玄圃瑤華」を広報ポスターとして広く利用するとともに、商品化を望む声が多いため、一筆箋、絵はがきセット、トートバックや手ぬぐいを制作した。 小袖「冬木小袖」修復プロジェクトの周知にあたり、文化財活用センターとの連携のもと、蒔絵シールや若年層に人気の高いキャラクター（初音ミク）とコラボレートした「冬木小袖ミク」の商品を取り扱った。 親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン なりきり日本美術館 リターンズ」に合わせ、「びじゅチューン」関連商品を約90点取り扱った。</p> <p>ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、当館は2月27日（木）からの臨時休館を経て、6月2日（火）より開館した。開館にあたっては、来館者が安心して来館できるよう、(公財)日本博物館協会が定めた「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を踏まえ当館独自のガイドラインを策定するとともに、オンラインによる日時指定を導入した。 「きもの KIMONO」展、「桃山-天下人の100年」展において、来館者の利便性を高めるため、通常開館日は17時閉館を18時閉館と開館時間を延長した。</p> <p>エ アンケート収集方法は、不特定多数の来館者が手に取る可能性がある従前のアンケート方法は感染症予防の観点から適切ではないため、その都度消毒作業が行えるよう来館者に直接依頼する方法に変更した。夜間開館に対するアンケートは、夜間開館日の減少・中止により1度の実施となった。 (東京国立博物館)</p> <p>ア 2年度も平成館2階の特別展開催に合わせ、平成館1階ラウンジにて和菓子、飲み物の販売を行うとともに、構内では特別展の有無に関わらずキッチンカーによる飲食物の販売を行った。販売にあたっては新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を指導した。</p>							
【補足事項】 (東京国立博物館)	<p>ア 新型コロナウイルス感染拡大のため、2年度は大幅に外国人来館者が減少していることから、2年度の外国人アンケートの実施は見送った。また3年度の調査に向けてアンケート質問事項の精査を行った。</p> <p>ウ 日時指定について、オンライン予約が難しい方向けに、オンライン枠とは別に当日窓口での受付ができるよう、一定の枚数の当日券を別途用意するなど、全ての来館希望者が利用しやすい運用を行った。</p>							
								
当日の入館予約状況の案内								
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	65.4%	80%超	C		70.4	68.1	71.3	71.7
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	-%	-	-		69.7	74.8	72.7	76.9
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 観覧環境に関するアンケートのうち、レストランに対する満足度が大幅に下がった。これは法隆寺宝物館ガーデンテラスのレストランが、新型コロナウイルス感染拡大による入館者数の大幅減のため、年度内閉店となったことも影響していると思われる。 なお、臨時休館明けから、入館者数を制限している中でもキッチンカーによる飲食販売を行い、レストラン閉店による影響を最小限となるようにした。 またミュージアムショップでは、当館所蔵品や展示に関連した新商品を製作するなど、より魅力ある商品構成とした。</p>							
【中期計画記載事項】	<p>来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。</p>							
【中期計画に対する評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して来館者を対象とする満足度調査を定期的な実施を行い、事業、管理運営についての見直しや改善を適宜行った。今中期最終年度の2年度から、より多様な意見を集約できるよう、来館者に依頼する形にアンケート集計方法を変更した。次期中期においてはさらに気軽に来館者が意見を出せるよう、QRコードを活用したアンケート方法など、幅広い来館者層からの意見集約ができるような方法も検討したい。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等							
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせ、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館・夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館・夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にミュージアムショップ及びレストランのサービス向上に努める。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 西尾佐枝子 企画室長 山川暁					
【実績・成果】 (4館共通) ア 展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケートを4言語(日・英・中・韓)で実施し、外国人も含めた幅広い意見を把握するよう努めた。 イ ・ミュージアムショップの利用者等の意見を参考に、オリジナルグッズを開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。 また、レストランでは当館限定のオリジナルメニューを提供した。 ・来館者のニーズの把握及びサービスの向上のため、当館各部門の担当者と運営業者(ミュージアムショップ、カフェ、レストラン、会場運営)が参加する連絡会議を開催し、情報交換及び新たな取組の検討を行った。 ウ ・2年度は新型コロナウイルスの影響により、夜間開館を休止した。 ・特別展「皇室の名宝」では、開館前の行列を回避するため試験的に開館時間を早める措置を実施した。 ・3年3月末からの特別展では、開館時間を30分前倒しし、午前9時から開館することで早朝開館を実施した。 エ 新型コロナウイルスの影響により、夜間開館時のアンケート調査を実施することができなかった。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 『博物館だより209号』に龍谷ミュージアム副館長石川知彦氏による特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」の展覧会評を掲載した。 (京都国立博物館) ア アンケート等の意見を参考に、運営業者と問題点を共有し、ミュージアムショップ及びレストランのサービス向上に努めた。								
【補足事項】 (4館共通) イ ・当館が監修し、トラりんが研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの3巻(全4巻予定)を発売した。 ・当館収蔵品及びトラりんをモチーフに、一筆箋、マスク等のオリジナルグッズを開発した。 (京都国立博物館) ア ・当館ミュージアムショップのオンラインショップを新たに開設し、過去の図録や学術書、オリジナルグッズ等を販売した。 ・新型コロナウイルスの影響によるカフェ利用者減少対策として、試行的に、庭園開放期間中にテイクアウト販売を実施した。								
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	74.5%	80%超	C		40.2	63.4	73.1	67.4
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	100.0%	-	-		69.3	73.5	82.9	67.3
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 観覧環境に関するアンケート満足度については、目標値には達していないものの、元年度を上回る結果となった。 外国人アンケートの結果を踏まえ、多言語表記を引き続き推進し、満足度の向上を図る。 新型コロナウイルスの影響により海外からの来館者数は減少したが、感染防止対策を4言語(日・英・中・韓)で案内することにより日本語以外を母国語とする来館者にも安心して観覧できる環境を整えることができた。以上のことから、年度計画を達成できた。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、観覧環境の向上を目的として、多言語表記の充実、トラりん関連商品等の開発、館限定オリジナルメニューの提供、柔軟な開館時間の設定及び混雑対策など、来館者のニーズを考慮した多くの取組を実施した。 多言語表記に関するアンケート満足度はおおむね好評をいただけており、観覧環境に関する来館者アンケート満足度については目標値には届かなかったものの、中期計画期間を通して徐々に向上している。したがって、来館者に満足してもらえる環境を整えられてきており、中期計画を達成できたと判断した。 次期中期計画以降も、引き続き来館者のニーズの把握に努め、サービスの向上を図る。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (奈良国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。									
担当部課	総務課	事業責任者	課長	大西真一					
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間を通して記述式アンケートを実施し、外国人来館者から得られた意見・要望も含め、館内で情報を共有し、改善に努めた。 イ アンケート及びウェブサイトを通して寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望を踏まえ、展覧会に合わせた特別な商品を販売するなど、利用者へのサービス向上に努めた。 ウ 新型コロナウイルスの拡大状況を鑑み、2年度には周辺行事等に合わせた夜間開館は実施しなかったが、特別展の会期中には平常展を含めて夜間開館を実施した。 エ 夜間開館に関する意見を得るため、夜間開館時にも記述式アンケートを設置した。 (奈良国立博物館) ア アンケートで得られた意見を参考にレストランメニューの改善に努め、利用者の満足度向上を図った。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。									
【補足事項】 (4館共通) (奈良国立博物館) ア 特別展にちなんだ限定メニューを提供したほか、お正月の1月2日と3日には、各日先着25名様にぜんざいを無料で提供した。 イ 当館の建物をデザインした手ぬぐい等のオリジナルグッズや、第72回正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。									
									
よみがえる正倉院宝物限定メニュー 「校倉クーヘンセット」		お正月企画「1月2日と3日は 先着25名様にぜんざいを無料で提供」		お水取り限定メニュー 「青蓮セット」					
【定量的評価】項目		2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		71.4%	80%超	C		68.0	70.5	75.8	81.9
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		83.4%	-	-		67.7	69.7	79.8	79.1
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、元年度実施していた対面回収による記述式アンケートが実施できず、アンケート回収数が減少し、観覧環境に対するアンケート満足度も目標値を下回る結果となった。しかしながら、アンケートの結果を踏まえ、敷地内にミュージアムショップやレストランの案内看板を設置するなど、利用率の向上に努めた。また、展覧会にちなんだオリジナルメニューを設定し、利用者の満足向上に努めた。さらに、ミュージアムショップやレストランの利用者が回答しやすいように、記述式アンケートの設置場所を見直した。一方、多言語表記に関するアンケート満足度は、4言語による解説や案内を充実化したこともあり、高い数値となった。 以上から、アンケートについては目標値に届かなかったものの、アンケート結果を踏まえた取り組みや利用者の満足度向上に努めることができたため、B評定とした。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の影響により、特に地下にあるレストランとミュージアムショップへの入館者数が激減したが、サービスを低下させることなく運営した。 通年で記述式アンケートを設置し、得られた意見・要望については、ミュージアムショップやレストランを含めた館内の関係部署で共有し改善に努め、中期計画は達成した。満足度が目標値に届かなかったものについては、3年度以降、引き続き改善に向けて努力を続けていく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等																																		
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (九州国立博物館) ア 特別展に合わせたメニューを開発する等、サービス向上に努める。 イ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。																																			
担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課	事業責任者	課長 白井克也 課長 楠井隆志 課長 杏掛裕頭 課長 執行正一																																
【実績・成果】 (4館共通) ア 新型コロナウイルスの影響により、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施することができなかった。 イ ・当館オリジナルアロマスプレーを福岡発のアロマブランドmagicFragranceと共同開発し、新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」の公開に合わせ、来館者へ配布した。 ・新型コロナウイルス感染予防対策のため、ミュージアムショップの利用者等のアンケートによる意見の把握ができなかった。また、来館者数の大幅な減少によりレストラン・カフェの営業が困難であるため、休店が続いている。 ウ、エ 新型コロナウイルスの影響により、2年度の夜間開館の実施は見送った。 (九州国立博物館) ア 新型コロナウイルスの影響により来館者数が大幅に減少し、レストラン・カフェの営業が困難であるため、休店が続いている。 イ 新型コロナウイルスの影響により売上が大幅に減少し、営業を継続できないという理由から、8月にアンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」は閉店した。																																			
																																			
【補足事項】																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>2年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th rowspan="2">経年変化</th> <th>28</th> <th>29</th> <th>30</th> <th>元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧環境に関する来館者アンケート満足度</td> <td>- %</td> <td>80%超</td> <td></td> <td></td> <td>77.2</td> <td>63.7</td> <td>61.6</td> <td>70.2</td> </tr> <tr> <td>多言語表記に関する外国人アンケート満足度</td> <td>- %</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>78.8</td> <td>84.6</td> <td>78.1</td> <td>80.8</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元	観覧環境に関する来館者アンケート満足度	- %	80%超			77.2	63.7	61.6	70.2	多言語表記に関する外国人アンケート満足度	- %	-	-		78.8	84.6	78.1	80.8
【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評価	経年変化	28	29	30	元																											
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	- %	80%超				77.2	63.7	61.6	70.2																										
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	- %	-	-		78.8	84.6	78.1	80.8																											
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 2年度においても、夜間開館を実施する予定であったが、緊急事態宣言発出等に伴い、実施を見送った。アンケート調査についても、実施することができず、年度計画を実行することはできなかった。しかしながら、オリジナルグッズの検討・開発など、来館者へのサービス向上に努めた。																																
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。																																			
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、来館者に対し満足度調査を実施し、その結果を踏まえ、サービスの改善等に努めてきた。中期計画最終年度である2年度においては、新型コロナウイルスの影響により、夜間開館・アンケート等は実施できなかったが、オリジナルグッズの検討・開発等を実施し、来館者へのサービス向上に努めたことで、中期計画を概ね遂行できたといえる。 次期中期においては、新しい生活様式に即したサービスの在り方を模索していきたい。																																